

■（１４０）「あまちゃん」完結も、「最終回」はない被災地への思い

NHK朝の連続テレビ小説「あまちゃん」が９月２８日で終わる。東日本大震災の被災地が舞台で、復興に向けた応援が込められ、高視聴率を記録したが、私自身はついに見なかった。どうしても被災直後に目にした惨状と重ねてしまい、素直に画面に向かえなかった。

２年半前の大津波で、ドラマの舞台となった三陸鉄道は壊滅的な被害を受けた。盛り土の上には何もない。離れた場所に大きく曲がった線路。ぼつりと残った小屋のような駅舎屋根には流された車……。そこに鉄道があったとは信じられなかった。被害の激しかった南側の区間で、難を逃れた気動車は、偶然にもトンネル内にいた１両だけ。その車両が約１００日後、被災時の運転士の運転で外に出た。三鉄は１８９６年の明治三陸大津波からの復興目的で敷かれた路線だった。平成の大津波から逃れた気動車を駅で迎えた地元の人、あらためて「復興への希望」を口にした。このときの記事の出稿作業を思い出すと、今も涙ぐんでしまう。

三鉄は、復興などに貢献したとして国から表彰された。一方、国の役人が匿名ブログで「もともと過疎地」で「復興は不要」。この落差は何か。被災地への思いに「最終回」はない。（山）